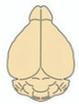


研究概要： 大脳は、脳神経系における情報処理の基盤となる重要な脳部位である。大脳はヒトにおいて特に発達しており、表面に皺構造を持つことが特徴である。この皺構造により神経細胞の数を増加させ、高度な情報処理が可能となったと考えられていることから、皺構造の発達・進化および作動の原理の解明は重要な研究課題である。この課題に対して我々は、マウスよりも大脳が発達したフェレットを用いて研究を進めてきた。本研究では米国のHolland博士の数理解析技術と我々のフェレット大脳解析技術という二つの独自技術を融合させることにより、皺構造の発達原理や機能的意義の解明を目指す。

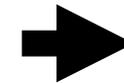
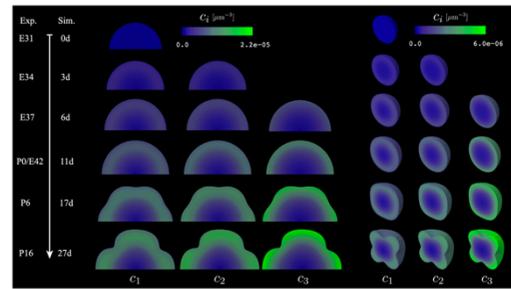
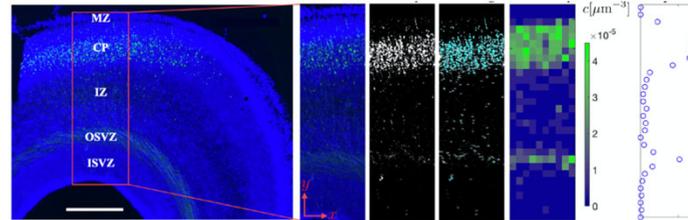
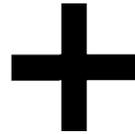
マウス



フェレット



ヒト



大脳の皺構造の発達原理と機能的意義の解明

ヒトの脳に近い特性をもつ
フェレット脳の研究データ

大脳発達における数理解析

【研究開発期間】 令和5年度から令和8年度まで（36か月間）

【受託者】 国立大学法人金沢大学（代表研究者）